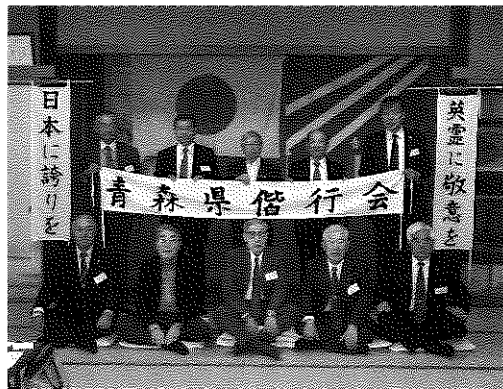


青森県偕行会総会と正式参拝

青森県偕行会は、実りの秋を迎えた9月24日、弘前市にある青森県護国神社において、平成28年度の総会を開催した。これまでは旧軍関係者の多かった青森市で行っていたが、昨年の総会で英霊顕彰に相応しい護国神社で開催すべしとの決定により初めての開催となった。

今回、旧軍関係者は伊藤会長のみとなり、元幹部自衛官9名で、合計10名の出席となった。

開会に先立ち、同神社社務所大広間床の間に「国旗」並びに本年作成された「青森県偕行会旗」、「青森県偕行会」の横断幕、偕行社理念の「英霊に敬意を」と及び「日本に誇りを」の懸垂幕を背景に



全員で写真を撮影した。

総会は、午前10時に国歌斉唱で始まった。

続いて、この1年間の当会会員物語者、59期鶴賀 泰美様、土教内田 稔様に対し黙祷を捧げた。

伊藤哲也会長仙幼49が挨拶で、旧軍関係者が少なくなり、6年前には偕行会も解散を覚悟したが、元自衛隊幹部の方々が入会してくれ、今年も総会が開催出来るのは、本当に喜ばしいと語った。

次いで、事務局長を議長として、議案の審議が始まった。先ず、昨年度議決事項の確認がなされた。

引き続き、昨年と同様「元幹部自衛官の入会促進について」の審議がなされた。特に、本県の入会目標である100名以上達成のため、より一層の元幹部自衛官の加入促進を図る方策について意見が交わされた。

3番目の議案として「旧弘前偕行社環境整備事業に関する協力」について、昨年来の偕行社による、協力事業の困難さと内閣府との調整経緯、理事会及び評議委員会での審議状況等の経緯を紹介し、県偕行会としては、「旧弘前偕行社環境整備等支援委員会」の設立、「同委員会会則」の制定が報告され、重要文化財建造物「旧弘前偕行社」と同建造物と一体となっている「暹止園(せうしえん)(大正天皇が命名)」及び前庭が完成したな

らば、建造物と庭園が一体となって、ほぼ完全な形で現存する旧偕行社が、極めて貴重な旧陸軍の遺産として、今後百年先まで存続継承させるべく協力が話し合われた。

4番目に「事業報告と今後の事業計画(案)」が審議され、むつ市釜伏山の「殉難之碑」及び八甲田山田代平の慰霊碑「絆」の現況が報告され、県偕行会として殉職自衛隊員の慰霊碑管理及び慰霊行事への関与の必要性が話し合われた。

総会終了後、同神社拝殿において全員により正式参拝を行い、2万9千176柱の御霊を慰霊顕彰した。

引き続き直会となった。会場は総会を行った社務所大広間で、2日後には同神社「創建150年記念事業」により改築が行われることから、畳敷きでの直会は偕行会で最後となる記念すべきものとなった。

直会は会長の献杯の発声で始まり、1年振りの交流の輪を広げた。5時間に及んだ総会、正式参拝、直会の最後には「海ゆかば」を高らかに歌い、引き続き2台の車で旧弘前偕行社を見学した。見学に際しては文化庁職員の説明があり、説明に聞き入っていた。見学後は米春の青森県護国神社での例大祭と引き続き弘前公園観桜会での再会を期して旧弘前偕行社を後にした。